



銅鑼

銅鑼

歴史と特色

銅鑼は古代ジャワ、スマトラの南方民族の打楽器にはじまり、中国、朝鮮を経て渡来したものとされている。日本では出船の合図や茶の湯で使われてきたもので、金沢では、茶道の普及に伴って製作されるようになった。

この銅鑼作りに打ち込んだのは人間国宝の故魚住為樂氏で、仏具の中の砂張の鈴の鑄造研究からヒントを得て銅鑼の製作を始め、その抜群の音響は高い評価をうけていた。

材料の砂張は、金属鑄物の中でもっとも難しいといわれている銅と錫の合金で、100対26が音響を良くする絶対条件である。現在この技法は孫にあたる兄弟によって継承されている。

歴史與特色

銅鑼是經由中國朝鮮傳來日本，用於船隻出航的信號和茶道儀式。魚住為樂氏從佛具銅鈴中得到靈感，開始製造銅鑼。其材料是銅與錫的合金，100對26的比例是確保優良音質的絕對條件。因此，銅鑼製造是金屬鑄造品中堪稱是技術難度最大的。

情報 資訊

主な生産地(主要産地)	金沢市(金澤市)
主な製品名(主要産品名)	銅鑼、茶道具、鈴、花生(銅鑼、茶具、鈴、插花用器皿)
主な生産者(主要生産者)	魚住安彦(魚住康彦)、魚住安信(魚住安信) 〒920-0865 金沢市長町1-7-14(金澤市長町1-7-14) TEL (076)221-7390



七尾和式蠟燭

歴史と特色

ろうそくは仏教の普及とともに、仏壇に使う灯りとして広まったものと言われている。当初は舶来の貴重品であったが、江戸時代に原料の油をとるハゼの木の栽培が奨励され、提灯の普及に伴って国産の安価なるろうそくが日本各地で作られるようになった。

七尾は天然の良港として昔から栄え、北前船により九州、東北各地にまでろうそくが販売されていた。

明治30年代に西洋ろうそくが入ってきてからは、価格面で格差が大きく、電灯の普及等で次第に作られなくなり、現在は仏事や祭礼用として1社が製造している。蘭草の髓と和紙で作った芯に、植物性油から採った白ろうを手で塗り重ね、太くしていく伝統の手作り技法を伝えている。

歴史與特色

蠟燭是隨著佛教的普及，作為佛壇使用的燈具而得到推廣。在江戸時代燈籠裡也開始用蠟燭，因此蠟燭的原料——木蠟樹的種植受到鼓勵支持。因七尾是北前船的停靠港口，七尾的蠟燭曾經銷售到九州和東北地區。現在有一家工廠使用蘭草的莖髓、和紙以及植物性蠟製作和式蠟燭，以將傳統的手工技法傳承下去。

情報 資訊

主な生産地(主要産地)	七尾市(七尾市)
主な製品名(主要産品名)	和ろうそく(和式蠟燭)
主な生産者(主要生産者)	高澤ろうそく(高澤蠟燭) 〒926-0806 七尾市一本杉町11(七尾市一本杉町11) TEL (0767)53-0406

七尾和ろうそく